

臨地実習（母性看護学）

[実習] 1年 後期 必修 90時間 2単位

《担当者名》○常田美和[tsuneta@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

母性看護学特論、母性看護学演習の学習を基盤とし、母性看護の臨床実践の場において理論を活用し、指導教員や実習指導者のスーパーバイズを受けながら、直接的看護ケアに関する実習を行う。専門看護師を目指す場合は、臨地実習の基礎として位置づけられる。

【学修目標】

- 1) 臨床実践経験から実習課題を明らかにし、実習計画を立案できる。
- 2) 実践過程および臨床現場における現象を、理論で説明できる。
- 3) 母性看護実践の質を向上するためのあり方を考察できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	実習課題	1. 周産期を中心とした母性看護学領域の臨床看護を实践する。 2. 対象者自身や臨床の場の抱える状況や問題を、総合的に分析、診断する能力を修得する。 3. 上記の分析を基に、母性看護実践の質を向上するためのあり方について考察する。	常田
	実習方法	指導教員の基で実習課題を明確にした上で、実習計画を立案する。実習先では、専門看護師あるいは専門看護師を目指す助産師、実践力のある助産師と実践する。適宜、指導教員とカンファレンスの場や帰校日を通して調整を実施する。ケースレポートを作成し、実習記録の記述等から臨地実習での課題を明確にする。	常田
	実習場所	手稲溪仁会病院 産科関連施設、NTT東日本札幌病院 産科関連施設を中心に、選択した課題に即した実習場所で行う（実習課題に即した上記以外の専門看護師（母性）が所属する施設の場合もある）。	常田
	実習期間	臨地実習の期間は、概ね2週間とする。実習日程は、本人の経験や臨床実践能力、実習課題と施設の状況により、適宜検討する。	常田
	実習記録実習報告書の作成	実習内容は記録に残し、分析資料として利用する。実習中に得た知見を報告書にまとめ、指導教員と実習指導者の指導を受ける。	常田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表40%、実習レポート60%

【学修の準備】

自己の臨床実践経験から導かれた疑問や問題意識は、先行研究ではどの程度解明されているのかを探索してから、実習課題を明確にすること。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。